

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・内嶋 順一

2022/9

「地域の中で自分らしく いきいきと生きる」を实践

〜にじいろの地域交流がめざすもの〜

待望のオープン

横浜市北部に位置する緑区の自然豊かな住宅地の中に、重症心身障害(以下重心)のある方を対象とした

生活介護施設「にじいろ」がオープンしたのは、令和三年四月。現在十三名の方が通い、うち六名の方は医療的ケア(以下医ケア)を必要とする。みな週五日

ほぼ毎日通っている。運営法人のみどり福祉ホームに通う方たちは重心の方が多く、数年前から重心や医ケアの方のニーズが増えていることを感じていた。実習にきてもらっても人数的に受け入れられないことをもどかしく思い、場所があったら新しい施設を立ち上げた

いと考えていたところ、ご縁があって「地域には福祉施設が必要」と言ってくださる理解あ

る大家さんにつながった。場所を提供していただけることになり、ついに念願の開所が実現した。

にじいろの流地域交流

にじいろでは、法人理念の「地域の中で自分らしくいきいきと生きる」を実践している。園芸・広報・地域交流等の係があり、メンバーは希望する係に入っている。地域交流係は、活動している様子を地域の人

たちに見てもらいたいと、できるだけ近所に散歩にでかけ野菜販売所で野菜を購入したり、赤い羽根共同募金で街頭に立つ。広報係は、広報紙『みどり福祉ホーム通信』に載せる記事の取材で加入している自治会の会長に

インタビューした。会長からは「今の時代は家族だけで面倒を看す地域全体で見るべきだ

と思う」と心強い言葉をいただいた。できあがった『みどり福祉ホーム通信』は、町内会の各戸に配布された。

さらに、もつとできることはなにかと、緑区社会福祉協議会に相談。小学校で福祉教育の出前講座を行う話が出ています。福祉教育

と言っても、電動車いすサッカーをやっているメンバーが実演する等メンバーが得意とするところで交流できないかと考えている。

職員が考え動くのではなく、メンバーの意思を反映し共に行動するの「にじいろ流」だ。



共同募金で街頭に立つメンバー

なぜ地域交流

開所して1年数か月でここまで地域との関



自治会長にインタビューするメンバー

りができる理由について尋ねると、利用者代表で運営委員の大滝さんは、「にじいろ開所前から、みどり福祉ホームではにじいろのメンバーで活動していた。場所が変って数名新しいメンバーが入っただけで大きく変わることはなかったから」と答えてくれた。職員とメンバーの信頼関係があり、日々の活動が安定していることに加え、法人理念が当たり前のこととして根づいているのだから。「地域に自分たちのことを伝えていくことは、『将来の福祉を支える』につながる」との渡邊所長の未来を見据えた言葉が印象に残った。

望遠鏡

「津久井やまゆり園事件」が起きて、七月二十六日で六年になった。最近ではメディアが扱う機会も少なくなり、事件などなかったように日常が過ぎていく。

いや、事件などなかったように日常を過ごしているのは私たち自身かもしれない。身を守るための抵抗すらできない「重度」障害者が一方的に殺傷されたこの事件を決して忘れてはいけないと私たちは誓ったはずではなかったか。神奈川県は二〇二三年度制定に向けて「当事者目線の障がい福祉推進条例」素案を議会に提出した。これによって共生社会を目指すとされている。そもそも共生社会とは福祉施策の変更だけで目指せるものか。求められるのは社会の大きな転換ではないか。当事者のひとりとして条例のあり方を厳しく追及したい。

(障害者支援センター
運営委員 渋谷治巳)

運営委員 渋谷治巳

令和四年度進路対策研究会

調査結果について

進路対策研究会

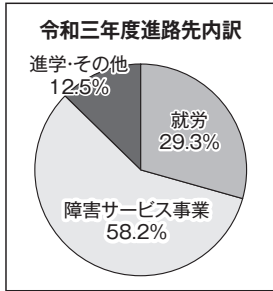
副委員長 松井英明氏

(高津養護学校)

川崎北分教室

令和四年度の進路調査結果によると、横浜市内の特別支援学校等の今年度の卒業予定者は七七〇人にのぼる。令和二年度の八七名からすると若干の減少になるもの、令和十年度以降は千人を上回る卒業予定者となる見込みである。

令和三年度の卒業生は七二三名。進路先の内訳はほぼ例年通りの割合であった。



各進路先の状況

◆就労

ここ数年は、三割程度の卒業生が一般企業や、特例子会社に就職している。二〇二二年の障害者の法定

と令和三年度卒業予定者を比較すると、卒業予定者の倍以上の受入可能人数があるが、事業所の受入状況を区別に見ていくと、サービスごとに大きなばらつきがあり、通える範囲の中に必要なサービスを提供している事業所がない場合も多い。

今後、地域ごとに必要とされるサービス提供がされるよう、保護者、事業者、学校が連携してニーズを行政等に伝えていきたい。

◆障害サービス事業所

例年六割近くの卒業生が障害サービス事業所の進路先を選択しているが、必ずしも個々のニーズに沿えているわけではない。例えば、支援の内容が本人に合っていないと遠距離である、送迎の手立てがないことなどで進路選択の対象にできない、近隣の事業所で受入れの余地があっても本人のニーズに合っていない等の実態がある。

令和四年度の事業所の新規受入可能調査の人数

同時に重度障害者にとっては、居住地域に本人に合ったサービスがない場合の移動手段の確保はとても重要である。しかし、事業所ごとの送迎サービスや地域の移動サービスのどちらかが不足しており、こちらについての検討も不可欠である。

かつては事業所の数も少なく希望者数も限られていた自立訓練は、就労訓練の段階的なサービスとして卒業時選択することが徐々に増えてきたようである。今後、事業所ごとの特徴ある取組みが進むことで進路選択に幅が広がることが期待される。

◆進学・その他

進学については、従来の職業能力開発校や能力開発センターなどの職業訓練以外に大学や専門学校を希望するケースも増えてきている。その場合、福祉的な支援や相談の必要が出てきた際の支援機関との連携も必要となる。

また、不登校や体調不良など、様々な理由で進路先が未定になるケースもあり、在学中から行政や支援機関、医療機関との情報共有や連携を行い、卒業後に孤立しない為の手立てを考える必要がある。

◆最後に

今後も、進路対策研究会の活動を通じて、各校の進路担当者間の情報交換、意見交換を行い、二人でも多くの生徒がよりよい進路選択ができるよう活動したい。

「移動情報センター」を「ご存じですか？」

「障害のある方へ、移動に関する相談の窓口」

横浜市内の各区社会福祉協議会には「移動情報センター」があります。障害等があっても住み慣れたまちに暮らしたい…。そんな思いを大切に、障害や難病により外出に困難を抱える方のため「移動」に関する相談窓口です。外出に関する相談は様々です。「外出したいけど、1人では不安」「遊びにいきたいので付き添ってほしい」「子どもの学校登校を手伝ってくれたい」「通所先までのヘルパーを探したい」「外出に関する制度について知りたい」「車いすで乗りたい」「タクシーを紹介してほしい」など、どこに相談していいのか戸惑うこともあると思います。

をお聞きし、対応できるガイドヘルパー事業所やタクシー等ご紹介をしています。また、ガイドボランティアの人材育成や移動支援希望者のボランティアの紹介もしています。移動支援を希望したい、制度について知りたい等、移動に関する相談がございましたら、お気軽に市内各区社会福祉協議会「移動情報センター」にご連絡してください。できる限りご希望に沿って一緒に考えます。



ガイドボランティア活動の一コマ

※進路対策研究会とは、昭和五十九年より横浜市内在住の生徒が通う盲・聾特別支援学校、養護学校、サポート校、技能連携校、高等専修学校、フリースクール等四九校の進路担当者及び行政担当者、教育委員会担当者が集まって、進路に関する調査、諸問題の検討を行っている。

横浜市障害者作業所連絡会主催「D1グランプリ2022」
★祝「ぱんばかパン合唱団」パプリカさん
優勝インタビュー!!
 ぱんばかパンから笑顔をつづぷりお届けします♪



火曜日メンバー

参加したメンバー全員からお話を伺った。第二声はやはりみなさん「嬉しかった!」とあふれ出る喜びを様々な表現

今年度、横浜市障害者作業所連絡会主催「D1グランプリ」が、初のオンライン開催となった。D1グランプリの「D」は、「出し物」のD。十二の事業所が思い思いの出し物を披露した。
栄えあるグランプリは、ぱんばかパンのみなさんに決定!
 今回は動画配信で発表し、審査員は「動画を視聴した方全員」とい

う異例の形となった。審査員の心を最も多く射止めたのは、港北区にある作業所「ぱんばかパン」のみなさんによる、「パプリカ」の合唱だ。普段はパンやクッキー作りと販売に勤しむメンバーたちが、歌あり踊りありなんでもありの合唱団となり、自分なりの表現で合唱を楽しむ姿は、見ているこちらを自然と笑顔にさせてくれる。

優勝

インタビュー

★喜びの声を

聞いて

きました!

で伝えるてくれた。他に「まさか優勝するとは思わなかった」という驚きの声や、「頑張った」「やり切った」と満足気な表情で答えて下さる方も。特に指揮者を務めた和田さんは、メンバーのモチベーションを上げることに尽力したという。「今回は百点満点中八十点くらい。まだいける。最終的には十連覇を目指したい。」と力強く話してくれた。また、利用者副代表の丸岡さんは、「初出場で初優勝できて感激した。このような世の中(コロナ禍)でも、私たちが出来ることは笑顔を届けること。これからも多くの人を笑顔にした」と大きな目標を



金曜日メンバー

語ってくれた。

「投票してくれた方に感謝を伝えたい」と、ぱんばかパンではトロフィーと写真を展示。おいしいパンと笑顔に会いに、ぜひ一度足を運んでみては?

◆ぱんばかパンお店情報◆

市営地下鉄「新羽駅」または東急東横線「綱島駅」より東急バスで十分。「新吉田小学校南」バス停下車すぐ。

営業日：毎週月・水・金曜日(祝日は休業日となります。)

営業時間：12時～15時(コロナの状況により、変更となる場合がございます。)

商品がなくなり次第終了。(お問い合わせ先)

電話 045-6333-7363



グループホーム

すぽーん(都筑区)

喜多田 和子さん

まだメンバーさんが帰宅前の静かなリビングで、喜多田さんはノートを広げ、電卓を打っていた。

喜多田さんがすぽーんでボランティアを始めて約八年。元々、同施設で会計を担当しており、役目を終えてからは、メンバーさんのお小遣い帳を確認するボランティアとしてすぽーんを支えている。お小遣い帳の確認は、プライバシーに関わるセンシティブなこと。そんなことを安心してお願いできるのは、喜多田さんとメンバーさんとの間で長い時間をかけて築き上げた信頼関係があるからだ。喜多田さんは、レシートと出納帳を照らし合わせ、気になる

ことがあれば「本人や職員さんに伝える。」「第三者の目が入るので安心できます」と職員さんは話してくれました。メンバーさんからも「いくら残っているのかわかるので安心する。」「喜多田さんと会って話せるのが嬉しい」との声が。メンバーさんにとっても喜多田さんの存在は大きい。「長い間メンバーさんの生活を見守ってきた。メンバーさんとお付き合いできることが楽しい」と喜多田さんは笑顔で話してくれました。



メンバーさんと職員さんと一緒に。(喜多田さん右)

アーティストによる 身体系ワークショップの実践

旭区の6つの事業所の試み

旭区地域自立支援協

議会の日中連絡会の6つの事業所が、アーティストを招いてワークショップを開催した。ワークショップの内容は、創作ダンスや演劇、利用者さんがラジオ番組を制作したりと様々。どれも、利用者さん一人ひとりが身体や心を動かして感じる内容である。振付家・演出家・俳優・劇作家など、障害福祉事業所とは普段は縁の少ないアーティストが複数回事業所に足を運び実施した。

の取り組み

この取り組みの仕掛け人は旭区の生活介護事業所「カブカブ」の鈴木所長だ。「カブカブ」では二〇二年より画家や音楽家を招いてのワークショップを定期的に開催している。カブカブが目指していることは、「利用者さん

と、上手い下手という概念が無く、いつの間にかみんなが主役になれた空間だったとのこと。利用者さんからも「あーいうの苦手なんだけど、楽しかったよ」という声が聞かれた。

実施後6事業所からは「利用者さんの新たな一面を知れた」「職員である自分たちがわくわくした」等が聞かれた。また、「虐待防止研修の開催を考えていたが、ワークショップによって成果ではない過程の価値に気づけ、こういう方が必然的に伝わるのでは」「意思決定支援といわれているが、ワークショップで利用者さんへの理解が深まることで利用者さんの意思をくみ取りやすくなる」等、様々な効果が聞かれた。

なぜワークショップ

なのか

鈴木所長は、ワークショップによって、利用者さんの「能力」を引き出すのではなく、本来あったものに周囲が気づけるよ



ラジオワークショップの様子

神奈川県では障害者の芸術文化活動に関する相談窓口として「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」を設置している。問い合わせ先など詳細はこちら。



うになると話す。また、職員の「おもしろがる力」が育ち、ちがつてもよいと肯定できるようになる。それによって否定されない安心感とその場を満たすと、利用者さん一人ひとりがいつでも存分に表現できるようになる。このような連鎖を生み出すワークショップの力を広めたいと、冊子の発行や、YouTubeチャンネル「カブカブテレビ」でも紹介をしている。



～陸上～
さつき会OB会(磯子区)
原 彰さん

磯子区の訓練会さつき会に所属している原さんは、親子で陸上に取り組んでいる。母のさとみさんは、彰さんがまだ幼い頃、将来のことを考えて、運動する機会が必要ではないか、と思っていた。ある時、知的障害のある方を対象にスポーツプログラムを提供している「スペシャルオリンピックス」の活動を知り、サッカーやリズムダンスのプログラムに親子で通い始めた。彰さんがサッカー等に挑戦する姿を見るうちに、走る「ことが彰さんに合っているのではないか、と思うようになり、十数年前から陸上のプログラムに参加し始めた。

始めた当初は、1kmのコースを歩いていたが、練習を積み重ね、今では

四〜五km走れるようになった。プログラムではまず、準備運動やトレーニングから始まるそうで、「アキレス腱」のストレッチがあると、彰さん自ら説明してくれた。走る距離は自分で決めており、4kmを選ぶことが多いという。楽しんで走れる距離を自身で考えて決めているのではないかとさとみさんは話す。



温かいまなざしを向けるさとみさん(左)と彰さん(右)



ランニング中の彰さん

令和四年度 障害福祉入門(新人) 研修会 実施報告

この研修は、障害のあ
る方の支援に携わる新
人職員(講義は新人職
員以外も受講可)を対
象に、横浜の障害福祉
の歴史や現状、また、支
援を行う上で必要な知
識を理解し、今後の業
務に役立てることを目
的に、毎年五月頃から
二か月間をかけて全五
回のカリキュラムで実施
している。受講生は、社
会人として就職したば
かりの方、他業種から
転職された方等、年齢
も経歴も様々だが、障
害福祉の第一歩を歩み
始めたという点では共
通している。研修内容
としては、横浜の障害
福祉の歩みから始ま
り、当事者や家族の立
場からのお話や、横浜
市の制度施策のこと、
虐待防止や人権、傾聴
などバラエティに富ん
でいる。座学だけではな
く、コミュニケーション

キルを養うためのワー
クシヨップを取り入れ、
最終日には、管理者の
立場の講師から「職員
として望まれる支援」
として、新人職員たちへ
の力強いエールで締めく
くられた。
また、他者の意見に
耳を傾け、それについて
考え、そして自分の意
見を伝える場としてグ
ループディスカッション
の時間を設けている。この
グループディスカッショ
ンの一番の目的は、職員同
士の横のネットワークづ
くりにある。今後の業
務の中で、支援について
あるいは人間関係につ
いて悩み、葛藤した時に
事業所や法人が違つて
も、似た環境で働く「同
期」の絆が力になり、問
題解決の糸口になる場
合もあることから、この
研修で顔なじみになる
ことを期待している。



研修でのロールプレイ



隅々まで丁寧にこすります

研修を通してのアン

ケートでは「多くの仲間
がいて心強い」「この
仕事は悩み続ける仕
事。うまくいかない事
が多くと講義で聴け
たことがよかつた」等、
各々に気付きがあつた
ことが窺える。
全五回の障害福祉入
門(新人)研修を修了し
た新人職員は、それぞ
れが学んだことを現場
で実践してゆく。
障害福祉の分野に限
らず、福祉業界では人
材確保・定着は恒常的
な課題となつているが、
先人が積み上げてきた
歴史や当事者・家族の
想いを学ぶことで、業務
に対するモチベーション
の向上につながれば、と
考えている。

横浜市立の小中学校
等のプール清掃を受注
する障害者事業所が増
えている。令和四年度は
三十六事業所で九十八
校を担つた。(小学校六
十二校・中学校二十九校・
高等学校二校・特別支
援学校六校)

小雨の降る中、横浜
市立立野小学校のプー
ルで、はだしの邑(中区)
のメンバー・職員のみな
さんが作業していた。

はだしの邑は、昨年度
から作業を受注し始め、
今年度は三校を実施。
回数を重ね、作業にも
慣れてきたため、当初は
作業期間として二校につ
き二、三日を見込んでい
たのがほぼ一日で終えら
れるようになった。参加
しているメンバーからは、
「小学校と中学校のプー
ルの大きさが違うので、
作業の大きさが違いま
した。来年は人数など
調整が必要かも」作業



きれいになったプール

は疲れたけどプールが
きれいになっていくので、
楽しく掃除ができました。
できれば、毎年やり
たいです」等の感想が出
ており、事業所としては
来年度の受注を決めて
いる。
今後について
この作業は、横浜市
教育委員会事務局と
わーくるで調整を行つ
ている。毎年新たな事
業所が受注しており、
学校との打ち合わせに
はわーくるも同席して
実施時期や作業範囲、
使用する道具、注意事
項等を確認する。
事業所と近隣の学校
が関わるきっかけにも
なり得るので、今後も
見学会等を行い、調整
を進めたい。

よこはま障害者共同受注総合センター 受注センター わーくる通信



使う。続けて排水溝に
溜まつた泥汚れ等もき
れいに取り除く。目に
見えて汚れが落ちてい
くため、作業の成果が
分かりやすい。プールの
水が足首程度まで減つ
たら、プール槽の側面・
底面ともに汚れを落と
し、最後はきちんと排
水されることを確認す
る。学校から借りた道
具はきれいにしして元の
場所に返却する。
毎年の作業に

あゆみ荘 だより

新夕定食メニュー

『ヘルシー夕定食
ふれあい御膳』
を始めました

この七月より横浜あゆみ荘夕定食メニューに『ヘルシー夕定食ふれあい御膳』（価格三二〇〇円）が新たに加わりました。

以前よりお客様から「御膳料理は大変美味しいがお腹いっぱいになる。もう少し量を少なくしてもよいのでは」、「年齢を重ねてきたのでヘルシーな御膳料理があるといい」との声をいただいております。

その声にお応えしてあゆみ荘ではヘルシーな御膳メニューの開発に取り組み、半年の時間をかけてこの度完成いたしました。

新メニュー開発に取り組んだレストランあゆみ店長の赤木さんは「お客様の健康でおいしい食事を楽しみたいという思いに応えるため、試行錯誤を重ねました。ヘルシー御膳は現行の御膳料理の約半分七〇〇キロカロ

リーに抑え美味しくいただける御膳料理になっており、ご満足いただけると思います。ぜひお召し上がりください」と語る。



ヘルシー夕定食ふれあい御膳

この夏のメニューは、冬瓜の煮物、夏野菜のグリル、ローストビーフ、赤魚の塩こうじ焼などの七品目となっております。

今後とも季節ごとにメニューを替えていきますので秋・冬のメニューもお楽しみください。

皆様ぜひご賞味くださいませ。

障害者研修保養センター 横浜あゆみ荘紹介 ～浴室編～

横浜あゆみ荘の浴室は全て二階にあり『大浴室A』と『小浴室A』『小浴室B』があります。



小浴室A



大浴室

『大浴室』は男性用女性用の二か所があり、浴槽は掘り込み式で手すり・階段付となっております。お風呂はジャグジー付きで広くサウナ室もあります。脱衣室にはマッサージ機、タオルを絞る脱水機等も用意しております。

『小浴室』は障害や介助の状況による利用やご家族だけの利用ができる個別の浴室です。

『小浴室A』は脱衣室と浴室が一体で段差があ



小浴室B

りません。車椅子のまま入室できます。また浴槽に入るためのリフトを設置しています。

『小浴室B』は、脱衣室と浴室が区切られており入口が四十五センチの段差になっています。

『小浴室』のご利用は事前予約が必要になりますので、ご予約の際にお申し込みください。

横浜あゆみ荘ホームページでは動画で更に詳しく内容を掲載いたしますので、ぜひご覧ください。



横浜あゆみ荘
ホームページ

お問い合わせは、
横浜あゆみ荘まで
☎045(941)8333



機関紙「お元気ですか」 リニューアルのお知らせ

機関紙「お元気ですか」は、障害者支援センターの前身の横浜市在宅障害者援護協会から発行し、今年で四十四年目になりました。これまで、横浜で暮らす障害のある方や活動する障害者団体の「今」を、折おりのテーマにのせて年四回のペースで紹介してきました。

「お元気ですか」の題字は、下肢に障害のある方がペンを足の指に挟んで書いてくださうたもので、皆さんに親しまれてきました。一九七八年十二月の創刊以来、次号で二〇〇

200号
(令和5年3月発行予定)より
紙面が新しくなります!
どうぞお楽しみに!

創刊号 (1978年)

100号 (1997年)